

新^{しん} 緑^{みどり} ニュース



病院の理念

確かな医療技術
やさしい対応
地域への貢献

医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院

〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271
発行 地域医療連携室 TEL.045-984-6216 (直通)



2023年 新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。

昨年4月に病院長として赴任し、無我夢中で業務をこなしてまいりました。まず院内を理解し、次に地域における当院の評価を参考に、病院を運営してまいりました。しかし、新型コロナウイルス感染症第七波では、クラスターによる病棟閉鎖が発生し、皆さまにはご迷惑をおかけしました。ウイルスの変異は続いておりますが、感染力は強くなったものの、幸い重症化率は下がっております。政府も在宅勤務の推奨や外出の抑制など、過度な要請をしない方針に転換しました。これは、多くの方がワクチン接種に協力し、また人々の心がけとして感染予防が浸透した結果でもあります。



ウイズコロナという言葉の響きは単純ですが、病院においては、医療用マスクの装着、手洗いと消毒、防護具の着用、室内換気の維持、感染者の早期発見と隔離、これら当たり前の行動を「癖」としたいと思います。

さて、当院は236床の中規模病院です。病院は地域の医療計画に沿って運営されますが、いま中規模病院は急性期病院としての方向性を示すか、在宅医療を担う医療機関群の一員となるかの選択を求められております。どちらへ舵を切るか、春には決定しようと考えております。

新春を迎え、547名の職員みんな笑顔で、元気よくスタートしたいと考えております。当院の活動に、今年もご理解とご支援を頂ければ幸いです。



病院長 松前 光紀



新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染症対策と一般診療の両立にご理解、ご協力頂き心より感謝申し上げます。今年も地域の皆さまから信頼してご利用いただけるよう職員一同努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

病院では、“医療従事者の働き方改革”に向けたタスク・シフト/シェア（一定の業務を他者に移管する、あるいは共同実施すること）と同時に業務改善に向けた取り組みに力を入れています。職員が健康で、やりがいを感じながら働き続けられる勤務環境であることが質の高い医療の提供につながるからです。そのため、職員間の更なる連携強化やIT化に向けても積極的に検討を進めています。また、看護部ではより専門的知識・技術を習得した認定看護師や看護師特定行為研修修了者などの育成も推進しており、専門的知識にあたたかい心を添えた医療、看護が提供できるよう尚一層努力して参ります。ご利用の皆さまにもご協力いただく場面もあるかと思ひます。ご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。



新たな一年が皆さまにとって健康で幸多き年になることを心より祈願いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

副院長 兼 看護部長 天野 友子



【総合患者支援センター】

本年度より受診される患者さまの総合窓口として、地域医療連携室・医療相談室・入退院支援室・患者相談室を統合し、「総合患者支援センター」として新たに開設いたしました。センター長には松前院長、副センター長には野田副看護部長が就任、地域の医療資源として患者さまが円滑に医療を受けられるようなトータルサポートを目指しております。

【地域医療連携室～患者さまの立場に立った連携を目指しています～】

地域医療連携室（前方連携）は地域と病院を結ぶ窓口です。地域医療機関から紹介患者さまの受け入れや、かかりつけ医へのご紹介（逆紹介）など、患者さまが円滑に診療を受けられるよう各医療機関と連携を図っております。

【救急隊との連携】

横浜市を主として町田市、大和市、相模原市、座間市等、近隣エリアの救急隊に向けた症例勉強会を年に4回開催しております。当院医師を講師として、救急隊が学びたい知識に沿ったテーマで勉強会を実施しております。忙しい隊員の方々にもご参加いただけるように期間を設けてオンライン公開も行っております。

【メッセージ】

地域医療連携室は連携担当4名と、カスタマーサポート1名の計5名体制のチームです。今後とも患者さまに寄り添った医療を提供できるようにサポートして参ります。



シリーズ健康豆知識 冬の果物

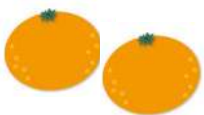
栄養科 管理栄養士 大平 真衣

寒さも増し、冬も本番となってきました。この時期はこたつでみかんを食べる方も多いのではないのでしょうか。店頭にはりんごや苺も多く見かけます。果物はビタミンCを多く含むので、免疫力を高める効果があります。特にみかんには喉や鼻などの粘膜を保護するビタミンAを多く含む為、風邪予防に効果的です。

食べ過ぎてしまうと血糖値や中性脂肪を上げる可能性がある為、夕食以降は控え、食べ過ぎに注意しましょう。

★果物の目安量(1日)

下記のうちいずれか1種類（2種類なら半量ずつ）



みかん 2個



りんご 半分



いちご 10粒



バナナ 中1本



「2021年度 新緑のQ I」と「2021年度 病院年報」を発行しました

QI（Quality Indicator：クオリティ・インディケーター）とは、医療の質を評価する指標のことです。医療現場のデータを適切な指標で解析することで、医療の質改善のためのツールとして用います。当院のQI指標とその意味を皆さまに知っていただくために作成しています。

病院年報では、当院の取り組み、活動内容、診療実績などをご覧いただく事ができます。新緑のQIと病院年報は当院ホームページ（病院紹介）よりご覧いただけます。



新緑のQ I
病院年報

WEB版みんなの健康講座

※オンライン配信

◇ WEB版みんなの健康講座はホームページ、スマートフォン（QRコード）からいつでもご視聴いただけます。

2月配信予定 WEB版みんなの健康講座

「ロコモティブシンドロームのセルフチェックと予防体操（仮）」 リハビリテーション部

